

授業科目名	対象学科・専攻	年次	期別
道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teaching Method	児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員 担当形態
演習	1	必修	山根 郁夫 単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法
<p>〇コアカリキュラム：道徳の理論及び指導法</p> <p>全体目標：道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>(1) 道徳の理論 一般目標：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 到達目標：1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>(2) 道徳の指導法 一般目標：学校教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 到達目標：1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 5) 道徳科の特質を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>	

【全体目標及び概要】	
<p>学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。</p>	
【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) 道徳の根本理念や道徳教育推進の意義を学校教育と関連づけ、小学校における道徳教育の目標や内容について理解する。 1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	(1)-1)
2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	(1)-2)
3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	(1)-3)
4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	(1)-4)
(2) 全教育活動を通じて行う道徳教育及び道徳科における授業の在り方や指導計画の作成について理解を深め、道徳科の授業設計能力並びに授業実践力を習得する。 1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	(2)-1)
2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	(2)-2)
3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	(2)-3)
4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	(2)-4)
5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	(2)-5)
6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	(2)-6)

回数	道徳の理論と指導法 授業内容 【山根郁夫】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	人間としての生き方を学ぶ道徳教育	(1) - 1)	(1)-1)
2	道徳教育の変遷	(1) - 2)	(1)-2)
3	道徳性の発達と道徳教育	(1) - 3)	(1)-3)
4	道徳教育の目標及び内容	(1) - 4)	(1)-4)
5	全教育活動における道徳教育	(2) - 1)	(2)-1)
6	道徳教育計画の策定	(2) - 1)	(2)-1)
7	道徳科の指導過程と教材・発問	(2) - 2) (2) - 3)	(2)-2) (2)-3)
8	道徳科における評価	(2) - 5)	(2)-5)
9	道徳科学習指導案の作成の仕方	(1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4)	(1)-4) (2)-2) (2)-3) (2)-4)
10	道徳科学習指導案の作成 (グループ研究) ー低学年教材ー 「はしの上のおおかみ」	(1) - 3) (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4)	(1)-3) (1)-4) (2)-2) (2)-3) (2)-4)
11	授業説明 (グループ代表) 及び研究協議	(1) - 3) (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4)	(1)-3) (1)-4) (2)-2) (2)-3) (2)-4)
12	道徳科指導案作成 ー中学年教材ー 「学級文庫」	(1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4)	(1)-4) (2)-2) (2)-3) (2)-4)
13	模擬授業の実施	(2) - 6)	(2)-6)
14	模擬授業の実施	(2) - 6)	(2)-6)
15	模擬授業の実施	(2) - 6)	(2)-6)
定期試験	実施する		
成績評価方法	学習態度 (関心・意欲・態度) 30%、定期試験 (知識・理解) 40% 学習指導案・模擬授業 (表現力・思考力・判断力) 30%		
テキストおよび参考文献	テキスト: 『道徳教育の研究』 山口短期大学 『小学校指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総則編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)』 『小学校指導要領 (平成 29 年告示) 解説 小学校特別の教科 道徳編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)』 『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科道徳編』 永田繁雄 編著 明治図書		
メッセージなど	特別な教科として位置づけられ、教科書の導入も確定するなど、道徳教育に対する国民の関心も一層高まっています。人格形成という教育の根幹に直接関わるだけに指導者の資質や技量の向上がより一層強く求められています。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。		
(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。		
(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。		
(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。		5%
(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。		
(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	課題レポート、グループ討議、定期試験 (知識・理解関心・意欲・態度・判断力・表現力・思考力)	50% (内、定期試験20%)
(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。		
(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	ほぼ完璧に道徳科における評価の仕方が説明できる。	大きな誤りなく道徳科における評価の仕方が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	ほぼ完璧に模擬授業が展開できる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	問題点はあるが、最低限の基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	模擬授業を展開することができない。	模擬授業 (知識・理解力・表現力)	30%